

陳湛綺編『民国珍稀短刊断刊（江蘇卷）』 全国図書館文献縮微複製中心、2006

解題

本書の出版説明によれば、江蘇省発行の期刊を最も多く所蔵しているのは上海図書館（1万8千種以上）で、2位が四川省図書館（1万543種）、3位が国家図書館（7056種）、4位が南京図書館（6千余種）ということである。本シリーズにはその中から珍しい雑誌約80種が収録されている。「珍稀」の定義は不明であるが、数量的な珍しさだけでなく、内容の面白さにも配慮されていると思われる。以下、各雑誌の概要を示す。

第1冊

儲蓄評論旬刊

編輯：儲蓄評論社（南京中山路2段279号）

編輯代表：江仲衡

民国23年1月～8月

第5～26期

・題名の通り、財政・貯蓄・奨券（債権）・人寿（生命保険）といったことに関する記事が集められている。

大風月刊

編輯：大風社編輯部（南京文昌閣文昌里2号）

発行人：余陶

民国36年4月～6月

第1～3期

・総合雑誌。「現段階的旅大接收問題」「論国情問題」「中国教育之面面觀」「民主政治下之党派競争」といった記事の他、時事照片という欄があり、「国軍在延安偽辺区政府前举行升旗典礼」といった写真も掲載されている。

大中讜論

編輯者：大中讜論社（南京国立中央大学大中路）

民国23年5月

第1期

・発刊の趣旨は、三民主義の宣揚、新生活運動の提唱等を通じての民族復興の使命の喚起。「憲法与政治道德」「新生活運動与民族復興」「復興中国農村經濟的方法」といった記事もあるが、巻頭は「薩爾瓦多承認「偽国」」である。

大衆周刊

発行人：呉寄芳

編輯人：姚大均

發行所：大衆周刊社（南京南台巷9号-3）

民国 34 年 6 月～10 月

第 1～2、8～13、15 期

・第二次世界大戦末期に南京で創刊された新聞。すでに日本の敗戦が決定的なものとなっていたためか、内容は「倘使美軍在中國登陸了!怎麼辦」「重慶政訊涓滴」「沖繩決戦結束以後」など、戦後中国のあり方に関するものが多い。

第 2 冊

導平

編輯者・発行者：四川忠県旅甯同学会

民国 12 年 7 月

第 1 期

・南京滞在の忠県出身者による学術雑誌。「早婚之害」「自由与法律之關係」「動物与植物」「改良忠県農業計劃」「平治忠県土匪之我見」といった記事がある。

東北週刊

編輯兼発行者：東北週刊社（南京平倉巷 13 号）

民国 26 年 11 月

第 1～3 期

東北周刊（東北週刊を継続）

編輯兼発行者：東北週刊社（武昌張之洞路 157 号→漢口旧日租界大和街 53 号→漢口中街 118 号）

民国 27 年 2 月～7 月

第 4～24 期

・「澈底抗敵」「収復失地」「復興国家・民族」の 3 つを目標に、東北問題を中心に扱う。「全面抗日与東北義勇軍」「淪陷了六年的東北」「對於参政会的認識」といった記事に加え、毎号「東北消息」として満洲国事情が伝えられている。

冬青雑誌

発行者：巴県旅甯学会

民国 12 年 3 月

第 1 期

・南京在住巴県出身者の学術雑誌。不偏不党の立場で、良心的判断により合理的主張を行うことを目指す。「智識与人生」「民衆自救与軍閥自救」「重慶棉紗貿易之片面觀」など。

第 3 冊

東吳雑誌

編集者：蘇州東吳大学校同門会著述科

民国 3 年 3 月

第2号

・東呉大学の刊行物。通論・学術・文藝・雑俎に大きく分かれ、それぞれ「論国文衰落之影響及其挽救之方法」「蘇格拉底自辯文」「文学小史」「霧花室隨筆」といったものを掲載。

法律評論

発行者：中華民国法曹会（南京北門橋鷄鶩巷 24 号→南京高樓門 28 号）

民国 32 年 7 月～33 年 2 月

第 1～3、7～8 期

・汪精衛政権下、法曹界の同人精神の団結などを目指した中華民国法曹会の機関紙。各種判例、司法人員動態の他、「上海司法之回顧与前瞻」「戦時刑事特別法積義」「司法官之反省」「戦時經濟政策綱領」といった論文が載っている。

仏教文藝

編輯者：仏教文藝月刊社（南京国府路毗盧仏学院内）

民国 32 年 12 月～33 年 11 月

第 1～12 期

・純粹に仏教の立場から、仏教及び現代社会の評判、改進、理論の論著、文藝などを載せることを標榜する雑誌。高楠順次郎、井上秀天といった日本人の著作も翻訳掲載されている。「芸術上の宗教観」「大小乗之我見」「法華經普門品要积序」などが掲載される。

第4冊

風雅雜誌

編輯兼発行者：風雅雜誌社（[無錫]）

民国 4 年 5 月

第 1 期

・「言情小説 双鴛鴦」「写情小説 誤中情」「怨情小説 菊花孤雁」「短篇小説 愛而不見」「滑稽短篇 活商標」といった文藝作品を載せる。他に詩あり。

俯瞰

主編：黄震遐・黄葉

発行：俯瞰旬刊社（南京白下路 279 号）

民国 38 年 4 月

第 1～2 期

・人生の真摯な勇氣、政治に対する気骨、正しい学術を持ち、真実を認識し、真理を発見することを標榜する総合雑誌。劉令輿「論備戰言和」、劉元釗「大西洋公約与世界危機」、万千「中共的命運」等。

婦女週刊

[通信処]：南京市婦協（南京成賢街）

民国 18 年 10 月

第 2～4 期

・每期表裏 2 頁の小新聞。寄天「婦女運動之垂危与知識婦女的責任」、張季良「女子繼承權与女子」、曼頌「中国婦女運動感言」等。

復興之路

発行：收音期刊社（[南京太平路 299 号]）

民国 24 年 10 月

第 1 期

・「三民主義の革命理論の發揚」、「一切の反革命的理論並びに内部の秘密の暴露を肅清」、「精神修養の提唱、革命技術の討論」といったことを標榜する雑誌。国軍「目前政治形勢与第二期国民革命」、澤夫「第二期国民革命与中国青年」、卜白「第二期革命与肃反」等。

古黄河

主編兼發行人：單國維

出版者：古黄河社（徐州市公安街 19 号後院）

民国 32 年 4 月～33 年 5 月、34 年 1 月

第 2～8 期、革新第 1 期

・汪政權下徐州で発行された文藝雑誌。隨筆、詩歌、散文、童話、短篇創作、翻譯小説、文藝雜談と分かれ、それぞれ東野平「雪夜小写」、馬祥「托鉢僧」、夏穆天「路砂」、希何「謠言的来源」、荒砂「泥途」、J.奧斯頓「班奈之家」、舟木重信「德国文学与日本文学」等が掲載。

第 5 冊

国立中央図書館蔵呈繳書目録

編輯者・發行者：国立中央図書館籌備処（南京沙塘園 7 号→成賢街 48 号）

民国 24 年 1 月～25 年 1 月

第 1～12 期

・国立中央図書館に収められた書籍の目録。民国 19 年 3 月に教育部が公布した「新出図書呈繳規定」によれば、出版社は発行日から 2 ヶ月以内に 4 冊を省教育庁（あるいは特別市教育局）に呈出し、4 冊はそれぞれ省教育庁（あるいは特別市教育局）、教育部図書館、中央教育館、中央図書館に保存することが規定されていた。

国民革命軍旬刊

編輯兼發行者：国民革命軍旬刊社

民国 17 年 1～12 月

第 2、3～4 期（第 3 期以降は第 6 冊所収）

・詳細は不明であるが、国民革命の遂行を主張する雑誌。文儀「国民革命軍目的的危機及補救」、紫羽「国民革命軍人對於国民党内的派別応有之認識」等。

第6冊

幻術

発行者：幻術月刊社（蘇州蕭家巷56号）

民国20年7月～21年[10月]

第1巻第1期～第2巻第10期

・手品に関する雑誌。手品のやり方を図入りで説明するとともに、紙上には各種手品の小道具の宣伝、「混世魔王」という連載小説もある。

黄埔血

発行者：黄埔同学会撫卹委員会

民国18年

第1～2期

・黄埔同学撫卹委員会は黄埔軍官学校で学んだ軍人のうち死傷者の登記をする団体である。内容も死傷者の名簿が中心であり、「期別」「死亡種類」「死亡地点」「死亡年月」「永久通説処」等の項目に分けて記録されている。

交流

発行者：不明

民国32年

第1輯

・広告などから上海で刊行されていた国民新聞社の雑誌と思われるが、書誌情報が欠けているため詳細は不明である。「溝通中日文化与建設大東亜文化」「清郷文化之建設」といった論文が載り、石濱知行・片岡鉄平といった日本人の論文も多く掲載されている。

第7冊

監獄雜誌

発行者：不明

[民国21年]

[第1期]

・軍政部中央軍人監獄に関する雑誌。軍人監獄組織大綱など関係法規の他、獄務実施概況、民国20年度の統計表等が掲載されている。「獄政改良之理論与実施」という記事もある。

江蘇作家

編輯・発行者：江蘇作家聯誼会（蘇州北局7号）

民国30年[10～11月]

第2～3期

・編集者によれば当初は総合雑誌を目指していたというものの、実情は文藝色の強い内容となっている。「芸術科学之建立」「文藝運動的再出発」「中学生怎樣進修文藝」といった記事の他、創作、散文随筆が載る。

今日画報

発行：呉韻武

編集：今日画報社（南京中山路332号）

民国37年7～[11]月

第1～5期

・総合グラフ雑誌。「訪問当塗」「西行散記」「美国培植下的日本」といった特集の他、中国航空の天王号の写真、各種版画、絵画なども載る。

第8冊

金声

総編輯：高小夫

出版：金陵大学中国文学研究会

民国20年5月

第1期

・金陵大学（南京大学の前身）中国文学研究会の雑誌。「金文釋例」「琴旨録要」「文字学大綱」「墨子言行録」「両晋士大夫」といった論文が掲載。

禁烟委員会公報（増刊）

編輯兼発行者：禁烟委員会総務処第2科（南京水西門内登隆巷4号）

[民国19年]

・禁烟委員会は禁烟（烟はアヘンおよびその代用品）を目的として行政院に設けられた組織。増刊号には押収したアヘンの写真、禁烟工作概況、歴年海関査獲鴉片及嗎啡比較図等が掲載。

涇渭月刊

編輯者：涇渭月刊社（南京北門橋三服井2号）

民国23年10、24年4月

第3巻第1、6期

・内容は、各期で編集方針が異なるようであるが、第3巻第1期は、時事、文藝雑論及び情報、学生の評述の3つに分けられ、「談厨川白村」「論作不出文」「通訊暑期軍訓生活」といった記事、第6期には丁文江「現代之中年与青年」が載る。

警笛旬刊

出版処：鎮江南門外江蘇省警官学校警笛旬刊社

民国 19 年 8 月～20 年 3 月

第 3、6～7、11～18 号

・毎号 8 頁、「警察革命的理論与方案」「警察要軍隊化麼？」「怎樣肅清土匪」といった論説の他、各県同学消息、畢業生最近通訊録といった記事も載る。

抗敵周刊

発行人：江上青

社址：[抗敵周刊社]（揚州康山正誼中学）

民国 26 年 9～11 月

第 1～8 期

・毎号 12 頁。「抗戰以後的国際動搖」「淞滬地理与抗戰前途」「陥落後の北平」「日寇蹂躪下の良郷」「光荣的死」といった論説が載る。

第 9 冊

九二文摘

編輯者：陸軍第九十二軍司令部九二文摘出版社

民国 31 年 1 月

・「国際現勢与我国抗建前途」「国父對於第二次世界大戦之預言与其和平政策」「美日海軍比較觀」「宋子文談共党問題」といった記事が載る。

炬火月刊

編輯者：炬火月刊社（中山北路新運促進会内）

発行者：全国優秀大学生新国民運動暑期訓練班同学会

民国 31 年 12 月～32 年 3 月

第 1～4 期

・投稿規程に新国民運動・時局評論・學術探討・青年問題・文藝創作とあるように、汪政權下で進められた新国民運動の普及・推進を目的とした雑誌。「対今後青年团的希望」「談談農村教育」「通貨澎漲中の淘金者」等の記事が載る。

抗戰建国三週年紀念特刊

編印：陸軍歩兵学校特別党政治部

民国 29 年 7 月

・七七抗戰（盧溝橋事変）三周年を記念して発行された雑誌。「追悼陣亡将士暨慰問其家屬」「抗戰中的道德問題」「心理建設与抗戰建国」「抗戰宣傳之回顧与展望」「新県制之研究及其実施問題」など。

苦幹半月刊

編輯者：梅養

出版社：苦幹月刊社（南京中正路張府園 7 号→南京朱雀路潤德里 30 号→蘭州南府街 61 号）

民国 25 年 12 月～27 年 12 月

第 1～8 期（9 期以降は第 10 冊所収）

・刊行の目的が、東北人民の受けている苦しみを伝え、一致奮闘の気持ちを喚起することとあるように、「東北現狀的一般」「日本侵略滿洲之投資与移民」「偽国不是実行合併于日本嗎」「東北通訊」といった記事が中心。

陸海空軍討逆陣亡將士追悼大会特刊

[民国 20 年 3 月]

・上記追悼大会を記念する冊子で、巻頭に写真があり、各軍師討逆陣亡將士統計表、中央日報から転載された大会情形が載る。論文の類は掲載されていない。

民主旬刊

編輯者：民主社（[南京成賢街 48 号]）

民国 21 年 2 月

第 3・4 期合刊

・純粹に人民の立場に立って民主政治の理論と實際を研究することを標榜。「王樂平先生殉国兩週年紀念感言」「所謂全民救国協會建議的批評」「汪精衛先生關於国府移洛之報告」など。

吃來飯拿：五二〇血案画集

中央大学五二〇血案处理委員會編

民国 36 年 6 月

・学生が描いたと思われる風刺画を多数掲載。「抗議政府屠殺学生：五二〇血案紀日」に事件の狀況が時系列で記録されている他、写真も載る。

南京洪道月刊

主編：南京洪道分社（南京英威街 80 号）

民国 30 年 12 月～31 年 3 月

第 2～5 期

・每期 2 頁。スローガンは、「發揚東方文化・闡明人道真義・救正現代思想・實踐修身學問・篤行五倫八德・提唱人民政策・促成真正和平・推進大同極樂世界」。南京洪道分社の詳細は不明であるが、「仏学研究」「經学介紹 中庸述義」「生仏不二」「中庸發微」といった記事から道学系の団体と思われる。

求是月刊

社長：龍洙勛

主編：紀果庵

發行者：求是月刊社（南京漢口路 19 号）

民国 33 年 4 月～34 年 3 月

第 1～8 号（第 5 号以降は第 11 冊所収）

・青年の努力向上を発行の宗旨とするほかは、どのような分野に対しても積極的に採用するという立場の通り、「新海軍精神」「青年病型」といったものから「談談鋼筋混凝土」「微生物」といった理系に関係するものも掲載。

第 11 冊

人力月刊

発行人兼主編：張天羽

発行所：人力月刊出版社（南京顔料巷 83 号）

民国 36 年 5～7 月

第 1～3 期

・労働問題に関する雑誌で、「労働的人生」「抗建期間労働管制之追溯」「如何使用人力的研究」「我国労働思想的演变」といった記事が載る。

沙漠週報

発行人：劉桐

編輯者：沙漠週報編輯委員会（南京延齡巷 79 号→市府路 22 号 - 2）

民国 36 年 7～9 月

第 2～5、7～11 期

・每期 24 頁。「張君勸為什麼這麼硬」「溥儀的父親是誰」「六朝金粉遺跡夫子廟遂漸凋零」「小党派活躍聲中中和党捲土重来」「日本的芸妓」といった記事が並ぶ大衆紙だが、民主党派に関する報道が多い。

詩帆

編輯發行：土星筆会（南京大行宮黃泥巷 3 号→南京鷄鶩巷 59 号）

民国 23 年 9 月～26 年 5 月

第 1 卷第 1～第 3 卷 5 期（第 2 卷 4 号以降は第 12 冊所収）

・汪銘竹・常任俠・程千帆・滕剛といった詩人による作品を掲載。

第 12 冊

詩生活

編輯發行：詩生活社

民国 35 年 8 月

第 1～2[期]

・内外の詩作品の他、「論詩芸術上的主観和客観」「論革命智識份子的写詩」といった論説を掲載。

收音期刊

中央廣播電台管理处收音員訓練班同学会收音期刊社

民国 24 年 2～9 月

第 1～6 期

・無線電学術、收音常識及び政治、経済から文藝までを含む。構成は時事述評、論著、無線電与收音、科学新聞、文藝、同学消息、地方通訊、雜俎に別れ、それぞれ「四川勦匪問題」「收音同学之責任及応有之努力」「乙電池之自製法」「新麻醉剂」「致一期同学」「河南省立淮陽師範購設收音機」「略字」といった記事が載る。

第 13 冊

首都旬刊

編輯者：南京市党部宣伝科

発行者：首都旬刊社（南京慈悲社 14 号）

民国 29 年 3～6 月

第 1～6 期

・汪政権の雑誌。内容は政治経済から学術、文藝に及び、「中央政治会議的性質」「蔣政権之経済透視」「孟荀学説与現代略」「關於曾仲鳴殉国紀念」「米内饗応汪主席和平宣言」といった記事が載る。

PHILOBIBLON（書林季刊）

国立中央図書館書林季刊編輯室（南京成賢街 48 号）

民国 35 年 1 月～36 年 4 月

No.1～4

・国立中央図書館の英文季刊雑誌。「Ancient Chinese society and modern primitive society」「The spirit of ancient Chinese philosophy」といった記事の他、図書館新所蔵雑誌の目録を載せる。

太平洋叢刊

編輯：毛吟槎・王文典

印行：蘇州遠東太平洋研究会

民国 10 年 10 月

・毛吟槎は蘇州出身のキリスト者（1891～1991）。「国民对于遠東太平洋問題之急務」「太平洋會議之面面觀」「誰為我国不統一？」「納稅的輕重与商業的興衰」といった記事は毛吟槎によるもので、他に黄郛「華盛頓會議發起之内容及将来之趨勢」等が載る。

第 14 冊

土木

南京中央大学土木工程研究会

民国 22 年 11 月～24 年 4 月

第 1 卷第 1～第 2 卷第 4 期

・土木技術に関する每期 10 頁前後の雑誌。「論河道運輸」「泥土物理性質之探討」など。

文化建設

編輯者：黄浣筠

出版社：文化建設月刊社

発行者：徐州文化建設協進会（徐州戸部山広播電台内）

民国 35 年 10 月

第 1 号

・哲学、政治、経済から小説、詩歌までを載せる総合雑誌。「国際政治的本質」「日本天皇受審問題」「六朝史中の素族問題」「教育民主与孔子精神」といった記事。

文化雜誌

編輯発行：南京文化学院

民国 22 年 5 月

第 1 号

・「憲法上幾個重要問題之論究」「戦後德国的土地政策」「中日問題的基礎知識」「南洋統治問題的嚴重性」「政治概念与政治思想」といった論文、その他、小説・詩を載せる。

文化週報

発行：[文化週報社]（南京中正路武学園 20 号）

民国 24 年 2 月～26 年 3 月

第 4～19 号

・毎号 4 頁の回教に関する新聞。「研討「回族」「回教」的妥称」「山東濟寧光魯日報又以文字侮回教」といった記事が載る。

文藝周刊

中国文藝社

民国 20 年 4～11 月

第 25～30、44～47、49、52～56 号

・毎号 4 頁の文藝誌。鍾天心、儲元熹、葛賢寧、繆崇羣、蔣山青、周子壘、李孟平、招勉之、閻哲吾といった人の作品を載せる。

第 15 冊

問世

出版社：問世旬刊社（南京三步二橋 8 号一1）

発行人：陳柏青

民国 36 年 7～11 月

第 1～5、7～13 期

・「研討当前国是之園地」という趣旨の下、「第三次世界大戦在中国開始了」「太

平洋之海空戦」「開発膠東区三百噸黄金計劃」「選挙与国運」といった記事載せる。

無錫雑誌

無錫雑誌社（無錫真応道巷 22 号）

民国 12 年[1 月]～14 年

第 1～7 期

・地方の市政、教育、実業の提唱を主旨とする。「吾邑開闢商埠之私議」「無錫改進之鄒議」「擬組織中美貿易公司意見書」といった議論が並ぶ。

第 16 冊

西北世紀

編輯兼発行者：西北世紀半月刊社（蘭州）

民国 38 年 2～7 月

第 4 卷第 1～4、6～8 期

・題名が示す通り、西北問題に関する専門誌。「西北与中国」「透視西藏商務代表团」「秦始皇的統一与西北」「西北的回漢問題」「訪傅作義將軍太夫人」「甘肅人民参政誌略」といった記事が載る。

西北文化

発行人：羅偉

総編輯：張維新

発行所：西北文化社（南京大輝復巷 21 号→南京四牌楼 2 号）

民国 36 年 5 月～37 年 6 月

第 1～6 期

・西北に関する専門誌だが、西北に関する文藝も掲載。「如何可使中華民族團結起来」「西北農業建設問題」「新疆紀行」「西北在国防上之重要性」「外蒙内侵北塔山感賦等七絶四首」といった記事が載る。

新教育雑誌

編輯者：新教育雑誌社（鎮江双井路 3 号）

民国 36 年 5 月～37 年 9 月

第 1～8 期（第 3 期以降は第 17 冊所収）

・主旨は「探研并運用新教育之理論与实践、創造新人生、建設新社会」で、「為和平而教育世界」「教学做合一的特点」「美国兒童教育的發展」「戦後蘇聯教育計劃」といった記事が載る。

第 17 冊

新時代半月刊

発行人：李慎之

主編：巖岳喬

発行所：新時代雜誌社（南京小西湖朱雀里 8 号）

民国 37 年 8～11 月

第 1～8 期

・每期 16 頁。「戡乱的歴史弁証」「中国国民党的再建運動」「毛沢東的「独裁」運動」「对新幣的期望与意見」「亜洲的赤禍」といった記事を掲載。

新星月刊

南京新星社出版部

民国 18 年 11 月

第 1 期

・「深秋的書」「龍井茶」といった短篇、詩を載せる文芸雑誌。

新中国月報（抗戰軍人雜誌改題）

社長：田湘藩（南京太平路 435 号）

主編：李隆夏

民国 35 年 9～12 月

第 1～3 期

・題字は蔣介石による。「東北的国防」「自由主義的計劃經濟」「新相對論淺說」といった論説の他、「還都太太」といった喜劇、于右任の詩詞などが掲載される。

第 18 冊

学声

編輯者：学声編輯室

発行者：蘇州中学校

出版社：学声月刊社（公園路蘇州中学）

民国 35 年 8～12 月

第 1～4 期

・評論・文芸・通訊を中心とする雑誌。「和平成功之路」「回憶抗戰期間的故郷」「学生自治運動」「原子反応与原子時代」といった記事が載る。

学术

出版社：首都女子学術研究会（南京第一公園）

[民国 26 年]

女子の学術向上のために組織された研究会の雑誌。「麦糧自給的途径」「中国農村經濟問題」「現代婦女之任務」「蘇聯婦女的自由与職業」といった記事が載る。

血花

編輯者：黄埔同学会訓練科

民国 17 年 8 月

第 1、3～4、6 期

・内容は時事評述、論著、訳述、通訊、文芸。黄埔軍官学校の同窓会なので、内容は国民革命・三民主義を礼賛するものである。「黄埔学生観」「「廢除」与「修改」不平等条約」「提党権之芻議」等。

第 19 冊

宜興県教育会彙刊

民国 7 年 12 月

第 2 期

・「本県四五兩年度教育概況及今後三年間之計劃書」「吾郷教育之今昔観」といった講演・研究の他、「本県肄業中学校学生調査表」「本県市郷学校統計表」といった調査統計類も載る。

印刷月刊

南京特別市印刷業同業公会編輯委員会（南京朱雀路 83 号）

民国 30 年 11 月～33 年 11 月

第 1～22 期（19 期以降は第 20 冊所収）

・汪政権下の印刷業界の雑誌。題字は梅思平。「文化与印刷之重要」「建国与合作」といった記事が載る。

第 20 冊

芸潮

主編：姚大均

出版社：芸潮社（南京天津路 2 号）

民国 33 年 4～10 月

第 1～4 期

・芸潮社へは「思想が純正で、文芸を愛好する人」であれば誰でも加入できると標榜されているとおり、文芸主体の雑誌である。「無錫在春光中」「原野的波動」「北平的懷恋」

第 21 冊

植樹特彙

印行：農鋁部林政司

民国 18 年 3 月

・国民政府の制定した植樹式に関する論考を集める。「植樹式与植樹節」「兵工植樹計劃」「総理逝世紀念植樹式之意義」等。

中国教育電影協會第五届年会特刊

発行：[中国教育電影協會]

民国 25 年 5 月

- ・「国難時期教育電影的特殊使命」「蘇聯的電影教育」「一年来之上海電影教育」「日華電影教育座談会」といった映画教育に関する論考が載る。

中国評論

主編：陳止一

発行：中国評論社（南京上海路 40 路）

民国 36 年 7 月～37 年 9 月

第 1～10 期

- ・政治経済関係の論考を載せる。「当前之選挙問題」「従民主与法治談到法律教育之改進」「総動員法案公布以後」「民主政治の人事行政」「東北与四川」「改革幣制的研究」等。

中華評論

編輯：中華評論社（[南京吉兆营吉兆里 6 号-4]）

民国 26 年 3 月

第 1 期

- ・「日本对華的新認識」「日本の法西斯和人民戦線」「日本農村土地利用」といった日本に関する論考が多い。紙面にも、西神田医院、漢陽楼といった日本の広告が多く掲載されている。一方で、印刷地の安徽安慶に関する広告、記事も多い。

第 22 冊

中西新聞

主編：周吉

出版：中西新聞社（南京漢中路興中商場→南京白下路 219 号）

民国 37 年 7～11 月

第 1～5 期

- ・每期 16 頁、政治に関する記事が中心。「国大代表争待遇」「馮玉祥之死」「未来白宮主人是誰」「民社党再度分家」「台湾「地下運動」之謎」等。

中央党史史料陳列館落成紀念特刊

編印：中央党史史料編纂委員会

民国 23 年 3 月

- ・党史史料陳列館は現在中国第二歴史档案馆として使われている建物である。明故宮遺跡の中央を南北に通る線を中心にはさんで、この陳列館と国民党中央監察委員会を対象に配置され、それぞれ「西宮」「東宮」と呼ばれた。内容には建物の写真、配置図なども含まれている。

中央国術館六週年紀念特刊

編輯者：金一明

出版社：中央国術館（南京頭条巷）

民国 23 年 4 月

・中央国術館は中国武術の全国的統一組織。国民政府主席林森を筆頭に、有力者の題詞を掲載する他、「本館成立会紀事」「議案章則」「公牘函電」「筆記文藝」等を掲載。

中正市公報

印行：江蘇省立第一女子師範学校附属小学校中正市公報叢刊所

民国 10 年 12 月

・民国時代のいわゆる「学校市」の刊行物。学校市は学校内の学生自治組織で、詳細は不明であるが内容から附属小学校内部で教育の一環として生徒が編集したものと思われる。「中正」の名称は、時期的に蒋介石とは無関係と思われる。第一女子師範学校は、1927 年に南京女子中学と改称。

主人翁旬刊

発行：文聯書報社（南京珠江路 325 号）

編輯人：黄子元・劉宗武

民国 35 年 5～12 月

第 1、3～9 期

・「首都唯一児童定期刊物」と銘打つ、子供向けの雑誌。作文・計算問題・読み物などが載る。

総理奉安紀念特刊

編製：滬甯滬杭甬鐵路特別党部総理奉安紀念委員会

[民国 18 年 5 月]

・孫中山の奉安典禮に関する式次第が載っているが、写真は無い。

第 23 冊

作品

主編人：田野

編輯発行：野草書屋（南京大中華商場内）

民国 32 年 7～12 月

第 1～6 期

・夏穆天「旋風」、林微音「詩境」、張金寿「回郷」、東野平「飲食以後」といった文藝作品が載る。

文責・関智英（東京大学大学院人文社会系研究科博士課程）